

山元町 震災遺構中浜小学校を

金ヶ瀬中学校 1・2年生が見学

特集
防災



10月30日、金ヶ瀬中学校の1・2年生が、防災学習のため山元町の震災遺構中浜小学校見学に訪れました。施設は9月26日から一般公開されていますが、団体見学としては金ヶ瀬中学校が第1号となりました。

震度6強の巨大地震の後、海からの距離わずか400mの学校で、津波が迫るまでのわずかな時間に、何を考えどのように行動したのか。語り部ガイドの方から当時の様子を聞きながらグループごとに学校の内部を1階から屋上まで見学しました。

生徒たちは心に残った言葉などを書きとめ熱心に話を聞いていました。

◆ 震災遺構中浜小学校 ◆

山元町の中浜小学校は平成23年3月11日、東日本大震災の津波で2階建ての校舎の屋上近くまで浸水し、児童や住民など90人が屋上の上にある屋根裏の倉庫に避難して全員が助かりました。

2年後に閉校となりましたが、大津波の痕跡をできる限り残したまま整備し、震災の教訓を風化させず災害に対する備え、意識の大切さを伝える震災遺構として、令和2年9月から一般公開されています。

住所：宮城県亶理郡山元町坂元字久根 22-2

電話：0223-23-1171



▲木材や鉄骨などが散乱。押し寄せた津波の痕跡が残る



小学校建設の知恵
 住民の意見をもとに、敷地全体を約2メートルかさ上げし、避難用の外階段を設けるなどの対策をしていた。

屋上小屋
 雨風・寒気をしのげる場所が屋上にあった。

震災2日前の地震
 三陸沖で地震が発生。このとき職員は、津波が来た場合に備えてどのような行動を取るべきか打ち合わせを行っていた。

引き波のタイミング
 10m級の第1波、第2波が引いてゆき、沖には高さ20メートルはあろうかと思われる第3波、第4波が確認された。しかし、第1波、第2波の引き波とぶつかったことで低くなり、屋上への到達をまぬがれる。

我々はたくさんの方の偶然に生かされた。しかしこの小学校に残ったことが最善だったかどうかはわからない。

命を守った準備と偶然

地震の後もテレビがついた
 10分後に約6mの大津波が来るのがわかった。坂元中学校までの避難は不可能と判断し垂直避難(校舎上階へ)を決意。その後10mを超える大津波警報に情報が更新され、全員で屋上へ避難。

丸い柱
 校舎を支える太くて丸い柱。水圧に耐え、校舎全体を支えてくれた。

とにかく言いたいことは、大きな地震が来たら迷わずに海から遠くへ遠くへ逃げることに。



▲津波は2階天井近くの青い表示の高さまで達しました



▲屋上に上がると目の前に海が広がっていました

自衛隊のヘリコプターが発見
 余震が続くなか、屋根裏倉庫で一夜を過ごした。食べ物も水もなく、深夜には氷点下の気温となりお互いに励まし合った。翌朝、周囲は徒歩による移動が困難な状況だったが、自衛隊のヘリコプターに発見され、着陸するためのスペースが偶然残っていたため、すぐに全員を内陸部に搬送することができた。



中浜小学校見学を終えて感じたこと

見学当日、テレビ局が取材に来ていました。インタビューを受けた生徒は、「中浜小学校に来たことや、教えてもらったことを自分が他の地域に行ったときに生かせればいいなと思います。」と感想を話していました。